

山火事

今年は三月中頃から本州南岸に前線が停滞して典型的な菜種梅雨となつて雨降りの日が続いている。これが幸いしてか山火事のニュースが届いていないが、下草が萌え出るまでの三月四月は関東より西の地方、四月五月は北日本で山火事の危険な季節となる。

昨年の三月、茨城県日立市の郊外で大規模な山火事が発生して山林二百ヘクタールが焼失、山際の住宅街に延焼して大きな被害をだした。二千日間雨なし、最小湿度が十六%の異常乾燥のうえ十日程の強風が吹いていたという最悪の気象条件下での典型的な山火事となつてしまつた。この山火事では延焼拡大の原因にいくつかの考え方させられる点がその後の調査で浮き彫りとなつた。

カラカラ天気に火の不始末との原因是一般的な山火事と同じだが、加えて昭和六十一年の湿つた大雪で被害をうけて枯れた木々が所々に残り火事を広げてしまつた。

一方、山際に拡がる住宅地への延焼防止と消火作業では、急を聞いて駆けつけた自家用車が狭い道路に溢れ消防車が現場になかなか到着できなかつた。高台の消火栓も停電のため高圧ポンプがうまく動かず、

一般加入電話も混雑で通話が錯奏して肝腎の防災の連絡ができなかつたと報告されている。

単なる大規模な山火事というより、近年の人手不足で山林維持の難しさが火事を広げつてしまつたうえ、通信混乱、交通渋滞など都市型火災の防災の遅れが大規模な山火事と延焼を招いてしまつたと報告されている。

十年ほど前にも仙台郊外でフェーン現象の熱く乾いた強風のなかで大規模な林野火災がおきており、山火事の原因の九割以上がタバコのポイ捨てとたき火の不始末という人災である。これから春うららの季節に誘われて野山に入る機会も多くなつてくるが『潤断一秒あと大迷惑』にならぬよう暮れぐれも注意。